

## 奨励賞を受賞して

京都大学大学院工学研究科・寺尾 潤

私が初めてシクロデキストリンを用いて合成反応を行ったのは今から8年前のことになります。当時、大阪大学工学研究科の助手として遷移金属触媒を用いる新規分子変換反応の開発研究を行っていたのですが、文部科学省の在外研究員として留学する機会が得られました。自分の専門分野とは異なる研究をしたいという思いで、予めから興味があった超分子化学の研究室への留学を決意しました。シクロデキストリン化学に関しては、同一専攻の井上佳久先生や兼田隆弘先生の研究内容を学内の発表会で拝聴する機会があり、知らず知らずのうちに好奇心が駆り立てられていたのだと思います。留学先の Anderson 先生とは全く面識がなかったのですが、快く博士研究員として受け入れて頂き、一年間、シクロデキストリンを被覆分子とするロタキサン分子の合成研究を行いました。留学先でたまたま同じグループで研究することとなった藤本辰彦博士（当時大阪大学産業科学研究所博士課程二年）の紹介で、帰国後、産業科学研究所の谷口正輝助手（川合知二研究室）とナノ電極を使った分子配線に関する共同研究をスタートさせました。2006年に配線分子としてシクロデキストリンで被覆された共役ポリマーを用いることにより、ナノサイズの光スイッチングデバイスの作製に成功しました。私の研究グループはこの頃、ほとんどが触媒反応の開発研究を行っていたのですが、この成果と研究機関の異動を機に、現在の研究テーマはシクロデキストリンを用いる被覆型分子ワイヤの合成へとシフトしました。まだ、本格的にシクロデキストリンの研究を始めて間もないのですが、今回の奨励賞の受賞を機に、これまで行ってきた触媒化学の知見と経験を活かし、新しい研究分野を展開できるようさらなる飛躍を目指し、研究に打ち込む決意を新たにすることができました。この様な素晴らしい賞が受賞できたのは、シクロデキストリン化学の面白さをご教授頂いた Anderson 先生（オックスフォード大学）、メチル化シクロデキストリン誘導体の合成法を伝授して頂いた藤本辰彦博士（武田薬品）、津田進博士（大阪歯科大学）に心よりお礼申し上げます。また、本研究を遂行するに辺り、多大なるお力添えを賜った神戸宣明先生（大阪大学）および辻康之先生（京都大学）に厚くお礼申し上げます。末筆ながら今回の研究内容は神戸研究室および辻研究室の学生の弛まぬ努力による成果の結集であることをここに記し、彼ら一人一人に心から感謝致します。